

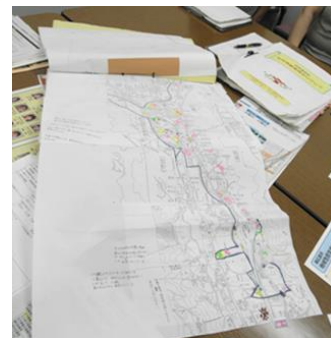
見守りマップ 見える化 連携

## 東広島市安芸津町

## 「在宅高齢者見守りマップ」でその人らしさを支援

## みどころ！

◇「在宅高齢者見守りマップ」によって関係者で“見える化”を図り毎年更新することで高齢者を見守る活動を継続している。活動主体は、地域包括支援センターと社会福祉協議会安芸津支所、民生委員児童委員、在宅高齢者見守り協力員が連携。気になる高齢者とその支援者を地図に記入し、一目で分かるように“見える化”する。マップの作成プロセスにおいて、見守りの必要な高齢者を関係者で共有、きめ細かく把握し、対応することで、住民の安心感を創出している。また、災害時避難所マップとしても活用することができている。



## 地域概要

東広島市安芸津町のデータ  
 総人口 10,463 人（高齢化率）  
 65 歳以上人口 3,870 人（37.0%）  
 75 歳以上人口 2,058 人（19.7%）

（平成 26 年 9 月現在）

広島県で最も広い盆地である西条盆地を中心にその周辺に点在する小盆地から構成される東広島市は、瀬戸内海沿岸から中山間部にまでわたり標高差が大きい。市の中央を山陽本線、山陽新幹線、山陽自動車道が東西に横断し、南部の安芸津町には呉線や島嶼部へ向かう港を擁するなど、交通の拠点でもあるため、隣接する竹原市や呉市、三原市との結びつきも強い。漁業や造船業が盛んな地元意識の高い住民性が特長で、東広島市合併前より地域の助け合いが進んでいる。

## 実施主体

東広島市社会福祉協議会安芸津支所  
 民生委員児童委員、見守り協力員

## 地域包括支援センターの活動紹介

## 【体制】

市の直営にて運営。スタッフは、保健師 1 人（市職員）、主任介護専門員 1 人（社会福祉法人より出向）、社会福祉士 1 人（社会福祉法人より出向）、プランナー 1 人（市職員）。行政直営の強みを生かし、行政担当部署からの情報が入りやすく、社会福祉協議会安芸津支所の地域活動との連携がスムーズ。

## 【活動】

平成 22 年に医療・介護関係者及び住民等で“安芸津を住みやすい町にしよう”という意識の共有のもと「あきつほっと安心ネットワーク」が結成された。4 つの部会（お薬手帳の普及・医療情報等の共有・災害対応チーム・生活福祉チーム）があり、月 1 回の部会と全体会議を実施し、地域包括支援センターも一員として活動する。また、平成 25 年より「安芸津地域関係者ネットワーク会議」を開催。地域資源の開発などネットワークづくりに取り組む。

## 取組の背景と課題認識

高齢化率の上昇に伴い、独居生活者や認知症、孤立する高齢者など、日常的に気になる住民が増加している。それらに対して住民同士の見守り活動の必要性があると、住民と協議しながら認識した。同時に、人との交流が苦手な人でもその人らしい人間関係をつくっており、それを尊重しながら“ゆるやかな見守り”や生活支援が行われていることもわかった。こうした個々のつながりや、すでにある支援を見える化する「マップづくり」に取り組み、見守り活動の促進をめざす。

## 取組の内容

## 【1】「在宅高齢者見守りマップ」の作成～活用

## ①地域の「気になる高齢者」のピックアップ

ひとり暮らし高齢者、孤立する高齢者、病弱な方、認知症などの症状がある方などを、社会福祉協議会安芸津支所職員、民生委員児童委員や在宅高齢者見守り協力員、地域包括支援センター職員が把握した情報を共有する。

## ②その人がすでに創りだした支援関係の把握

住宅地図を拡大コピーし、本人及び支援者を地図に書き込む。

宅配業者、配食サービス、自治会活動、商店などが、どのような支援をしているのか等について、情報収集と共有を図る。

## ③生活課題の不足について対策を協議

必要に応じて見守り活動計画を協議し、そのほかに必要な支援を検討する。



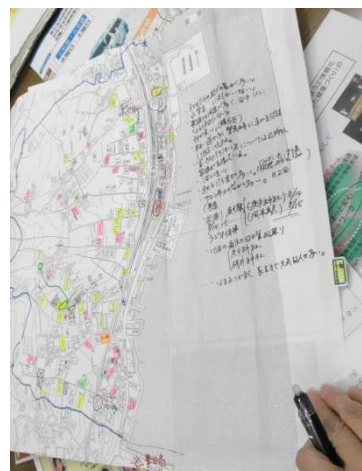
<「在宅高齢者見守りマップ」の表紙>

## 【2】在宅見守り活動の展開

在宅高齢者見守り協力員は、住民の中から民生委員児童委員が推薦し、在宅高齢者へのさりげない見守りを主な役割として東広島市が依頼する。「在宅高齢者見守りマップ」作成を通して、見守りの必要な人などの情報を共有し、日常的な見守り活動を行っている。活動のなかで得られた情報は社会福祉協議会安芸津支所、民生委員児童委員、地域包括支援センターへ連絡している。

## 【3】「在宅高齢者見守りマップ」の更新作業

マップは毎年一回更新する。地域包括支援センターにおいて保管し、住民の把握や見守りに活用する。



「在宅高齢者見守りマップ」

## 取組の経緯

平成 21 年、孤立生活をする高齢者に対する支援策を検討

専門職やサービスをすぐに導入するのではなく、その人らしい生活を尊重することを重視した関わりを模索する。日常的な人間関係や生活習慣をヒアリングすることで、近隣住民の支援があることが把握できた。それをふまえた見守りの体制を構築することを目指す。

「在宅高齢者見守りマップ」の開始

社会福祉協議会安芸津支所の協力により、「在宅高齢者見守りマップ」の作成に着手。

民生委員児童委員や行政職員など、在宅支援の担い手が集まり作業を開始。

個人情報管理上、作成したマップは地域包括支援センターにて管理することとした。

「在宅高齢者見守りマップ」の上書き、更新

災害時の避難所の記載や、空き家、ゴミステーション等も記入する。

地域の危険か所の把握にも活用する。民生委員児童委員の協力を得て毎年更新している。

## 取組の成果・今後と課題と展望

## ◆成果◆

## ①住民の安心感をうみだす

安芸津地域は、東広島市の中では高齢化率も認定率も4番目に高い圏域。東広島市の要支援1から要介護2までの調査では、「孤立」への不安を感じる高齢者がやや少ない結果となっている。「在宅高齢者見守りマップ」の活動で日常的な見守りが行われ、住民の安心感に繋がっているものと思われる。

## ②関係機関との連携に活用できる

マップ作成で生活課題を把握し、「安芸津地域関係者ネットワーク会議」で課題を共有、さらに医療介護も含めた関係者が協力しながら生活を支援するという、一連の流れができています。

## ◆課題と展望◆

今後、「在宅高齢者見守りマップ」の活用促進のために、住民組織や各種ネットワークとの連携をとることで、高齢になっても地域で安心して住み続けられるようになる。また、「安芸津地域関係者ネットワーク会議」は、医療介護事業所のほか、商工会、行政関係者、自治会等が参加することから、マップの活用と見守り体制整備や社会資源の開発を促進する必要がある。

## 取組のポイント、機能強化ポイント

マップづくりは、住民一人ひとりの声を丁寧に聴いて情報収集をすることで、見守り等支援の効果をあげることができる。同時に、見守り活動者の参加意識の向上やさりげない見守り活動へと導く効果もある。安芸津町ならではの、地域住民の安定した人間関係や地域性といったメリットをいかして、地域課題の把握と解決の流れが創出できた。

## 連絡先

東広島市安芸津地域包括支援センター	0846-45-1653	担当:山田谷美保子
広島県地域包括ケア推進センター	082-569-6493	
広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課	082-513-3198	